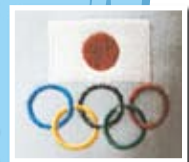


北京五輪の

夢と感動をありがとう



高鍋絵美選手

柴田亜衣選手

選手がオリンピックで獲得する財産はメダルのみではありません。選手自身のメダル獲得に向かう、努力の過程で身につける「人間力、生き様」その姿に私たちは感動し、自らの人生を奮い立たせます。夢と感動をありがとう。

8月8日に開幕した北京五輪が24日に閉幕しました。この大会には、鹿屋体育大学出身者で競泳の柴田亜衣選手、高鍋絵美選手、高桑健選手、男子バレーボールの津曲勝利選手が出場しました。男子バレーは惜しくも予選で敗退し、競泳では、女子自由形400mと800mに出場した柴田選手が残念ながら決勝に進めませんでした。女子800mフリーリレーに最終泳者として出場した高鍋選手が7位入賞。また、男子200m個人メドレーに出場した高桑選手が、3回連続で日本記録を塗り替えて5位入賞を果たし、感動を与えてくれました。



選手たちの労をねぎらう山下市長

い。ただ、自分の持てる力は出せました」と話し、五輪初出場の高鍋選手は、「タイムが悪かったのが心残りですが、自分の泳ぎをすることだけ考え全力を出し切ったので満足です」と話してくれました。

アテネ五輪から北京五輪までの4年間、鹿屋体大の水泳部員は、金メダリストとなった柴田選手を目標に、田中監督の指導を受けながら過酷な練習に打ち込んできました。高桑選手も先輩である柴田選手に何度も励まされ、北京五輪出発前には「自分も決勝に残り亜衣さんと同じ色のメダルが獲りたい」と抱負を話したほど。また、高鍋選手も4年前のアテネ大会時には、同大学の食堂に設置さ

れた大型スクリーンで観戦。「北京五輪は亜衣さんと一緒に出たい」と練習を重ね、見事五輪出場を果たしました。

田中監督の指導はもちろんのこと、柴田選手も後輩達を後ろ姿で励まし、新たに2人の五輪選手を輩出するなどいわゆる「柴田効果」と呼ばれる、誰もが認めている柴田選手の功績です。今後も同大学の躍進に期待しましょう。

また、バドミントンに出場した「スエマエ」ペアの前田美順選手（寿北小出身）も見事4位に入賞しました。選手の方皆さん、本当にお疲れさまでした。そして、北京五輪の夢と感動をありがとう。



市庁舎に掲揚された懸垂幕